



### 宮司プレス百二十七号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ  
発行者 彦島八幡宮  
宮司 柴田 宜夫  
発行 平成二十九年 十月 三十日

◇宮司の柴田です。 十月は、別名「神無月

(かなづき)」と称(しよう)されます。

民間伝承によりますと、日本全国の神様が、

出雲大社にお集まりになり、「縁結び」の会

議をされることから、このような呼び名にな

ったそうです。 したがって、出雲地方では、

「神在月(かみありづき)」と呼ぶそうです。

「無(な)」は、六月の別称(べっしょう)

である「水無月」の「無」と同じく、古語(こ

ご)の連用形で、現代語では、「の」になり

ますので、「神の月」といえるのではないで

しょうか。 先月の当宮末社の若宮神社例祭

を皮切りに、老町の貴布禰神社、今月に入り、

宮司を兼ねている六連島八幡宮、さらには、

田の首八幡宮、そして、本務社の当宮例祭と

厳かに執り修めることが、叶いました。 た

くさんの方々のお支えあればこそ、御奉仕終

えることが出来たのでありまして、心から感

謝申し上げます。 「ああすれば良かった、

こうすれば良かった」、反省することしきり

ですが、これは、「後の祭り」であります。

松下電器の創業者である松下幸之助さんは、

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十九年 十月 三十日

「うまくいった時は、皆のおかげ、うまくい

かなかった時は、すべて、自分に原因がある。」

と仰っています。 また、ノーベル賞を受賞

された山中伸也さんも、「うまくいった時は、

おかげさま、うまくいかなかった時は、身か

らでたさび。」とも述べられています。 肝

に銘(めい)じて、謙虚に受け止め、感謝の

心を忘れずにおつとめしたいものです。

◇明治天皇様は、御製に、

「とこしへに 国まもります 天地の

神のまつりを おろそかにすな

と、お詠みなつていら

っしゃいます。 また、

「わがくには 神のすゑなり 神まつる

昔のてぶり わするなよゆめ」

とも、お詠みになられ

ています。 古式にのっとり、明治天皇様の

御心(おおみごころ)に叶うことができますよ

うに、誠心誠意、おつとめさせていただきました。

◇幕末の歌人である橋曙覧(たちばなのあけみ)

さんは、「たのしみは」から始まる「独楽吟(ど

くらくぎん)」という歌集を残されています。

して  
神の教へを 深く思ふとき  
というのが

でございます。 日本人には、悠久(ゆうきゆう)、

気の遠くなるような長い時間のこと)の歴史の

なかで、意識していなくとも、美質(びしつ)

というものがそなわっていると思うのです。

その美質とは、一つには、万物万象(ばんぶつ

ばんしょう)、いたるところに神仏を見いだし

て、恐れ敬い、感謝の心で生活してきました。

二つ目は、小さき物や弱い立場にある人々を思

いやる、大切にすする気持ちを忘れなかったこと

です。 さらに、正義・正直という徳目を大事

にして、人として尊ぶべきモラルである倫理道

徳を重んじたのです。 この美質でもって、

様々な国難を乗り越えてきたのではないでし

ょうか。 しかし、昨今は、日本人の心情(気

持ちや思いのこと)が、着実に毀損(きそん、

こわれること)し、衰微(すいび、衰えている

こと)しつつあるような気がします。 さらに、

孝行や思いやりといった、人生に必要な重石

(おもし)が失われ、軽々しく扱われているよ

うな気がしてなりません。 「昔のてぶり」を

けっして忘れず、「神のまつり」を大切に丁寧

に、襟を正して御奉仕を申し上げ、「日本人の

心情」の軌道修正につとめなければならぬと

思います。 そのことに、あらためて、気づか

された各社の例祭の祭典奉仕であり、まさに、

「神の教へ」に、思いを致すことができたのであります。

◇さて、西洋は、「霸道（はどう）」、そして、東洋は、「王道（おうどう）」であるといわれます。

霸道とは、自分の利益のために、強い権力を発動する政治です。それに対して、「王道」は、人として尊ばねばならない仁義道徳によつて、物事を解決しようとする政治のことです。宮司プレス百二十五号で、これからの日本は、世界の三つの極端の流れの、何（いづ）れでもない、中立中庸（ちゆうりつちゆうよう）の道を歩むべきだと記述（きじゆつ）しました。近隣諸国は、東洋であるのに、「霸道」となりつつあります。私共は、本来の日本人の美質である、「感謝の心」「思いやり、慈しみ」「正義道徳」を取り戻しながら、ひとりひとりの誠実な働きかけが、十分に生かされる社会を構築（こうちく）しなければならぬのではないのでしょうか。そのためにも、これからも、一つ一つのお祭りを厳粛に御奉仕申し上げながら、「神明奉仕」「清掃奉仕」「社会奉仕」、神職の使命を全うせねばと思いを新たにしています。◇ようやく、今月号の宮司プレスをお届けする運びとなりました。発行の遅れの弁解等で、紙面をうめるといふ姑息（こそく）な手法（しゆほう）は、封印し、日本人の美質である、正義道徳でもって、正々堂々、遅れをお詫びしつ

つ、有言実行で、遅れの挽回（ばんかい）、軌道の修正をはかりたいと決意を新たにしています。二ヶ月併記のカレンダー、明後日は、十一月、最後の一枚となります。当宮は、立冬（しゅうりつ）の「衣替え」ですので、装束（しょうぞく）は、いまだ、夏物です。したがって、若干、肌寒さを感じています。季節の移ろいは、速度を加速したようです。皆さまの、ご自愛をお祈り申し上げます。

◇八月の祭典行事報告

▼月次祭

\*八月一日、十五日

▼貴布禰稻荷神社本殿遷座祭

\*八月五日

▼玄洋中昭和四十八年卒業同窓会参拝

\*八月十二日

▼神道家中元祭 \*八月十三日〜十五日

▼朝粥会 \*八月二十一日

◇八月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇維蘇志会八月例会 \*八月五日

◇彦島八幡宮リーグ（ソフトボール）役員会

\*八月二十一日

◇秋季例大祭企画室会議 \*八月二十五日

◇神道会世話人会 \*八月二十七日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇山口県神社庁下関支部幹事会

\*八月二日

◇神職養成講習会

■神社道概説「講義

\*八月八日、十六日、十八日

二十日、二十一日

■神社道概説「講義

\*八月三日、四日、七日

■成績判定会議、謝恩会\*八月二十三日

■閉講式 \*八月二十四日

◇山口県氏子青年会研修会\*八月十九日

◇山口県神社庁教学研究委員会

\*八月三十日

▼下関西ロータリークラブ

◇例会 \*八月九日

▼美祢社会復帰促進センター教誨活

動

\*八月九日（集合教誨、女子）

▼講演活動

◇下関市商工会議所女性部会講演

\*八月十七日

▼その他

◇人権擁護委員研修 \*八月二十八日

◇下関木鶏クラブ \*八月一日

◇四九（苦）八九（苦）の会 \*八月九日

◇迫町自治会役員会 \*八月十八日

◇迫町防災訓練 \*八月二十七日